

〈福岡県〉

第38回福岡県ろうあ者耳の日記念集会

2008.3.1(日)

於:春日市・クローバープラザ

☆講演:米内山明宏氏(明晴学園理事長)

「明晴学園の理想と現実 -今後の課題-」

☆抽選会

3月1日(日)春日市・クローバープラザにて第38回福岡県ろうあ者耳の日記念集会が開催されました。

講演は舞台やテレビなどで活躍されている米内山明宏氏で、ろう学校時代や、同級生・出会った人とのエピソード、明晴学園(バイリンガル・バイカルチュラルろう教育)についてなどのお話でした。

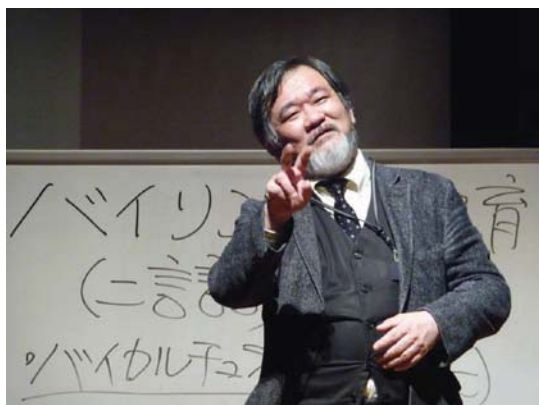
明晴学園の子どもたちは、日本手話の環境の中で日本手話を自然に身につけることができます。また、自然言語は人格形成上とても大切なものです。そして、日本手

話をもとに、日本語の読み書きを覚え、日本手話と日本語という二言語で学ぶことができます。前身であるフリースクールで、日本語をもとにした教育となんら変わらない成果をあげてこられたそうです。過去のろう教育は、聴覚口話法の訓練についていけなかった子どもは、その後の学習にも支障をきたし可能性を奪ってきました。日本手話で学ぶ学校の重要性について思いを語られました。

最後はかけ足でしたが、盛りだくさんの話であつという間に過ぎました。

お楽しみの抽選会は…電気シェーバーが当たりました！

(宗像手話の会)



〈佐賀県〉

「第50回佐賀県耳の日記念の集い報告」

3月8日佐賀県立美術館ホールにて「第50回耳の日記念の集い」が開催されました。参加者は約280人。目標の300人には若干及ばなかったものの50周年記念にふさわしく盛況に終えることが出来ました。

第1部は、開会宣言を皮切りにスタート。県聴協会長の挨拶に続き、県障害福祉課長、佐賀市長、お二人共に手話を交えての祝辞をいただきました。

続いて、50周年記念トーク。コーディネーター1名。パネラー3名が登壇し、昔の写真映像を元にろうあ運動について熱弁。障害者差別や男女差別の考えの残る時代を強く生き抜いてきた様子を話し、それを受け若いパネラーが、先輩方の運動をしっかり受け継いで頑張ります！と結びトーク終了。

次に、記念講演。講師は、ろう俳優の善岡修氏。国リハ卒業後就職、当時の手話ドラマに違和感をいだき、ろう者主体の映画に関わることになったそうです。その後、俳

優から人形劇へ転身。人形を使っただけの実演では顔の向きだけで表情が違って見えるのは、正に手話と同じと感じました。いろいろな出会いのなかで、柱を増やし、出会いの橋・人との繋がりも大事にして欲しい。と温かく心に響く言葉を残して下さいました。

第2部はFunky Arts Dance Teamによる若さ溢れるダンスで気持ちもリフレッシュ出来ました。

地元ろう者とサークルによるアトラクションでは、初めに高齢にはとても見えない元気なろう者10名による銭太鼓の披露。練習の積み重ねが、自信満々の笑顔にあふれ感動を与えてくれました。

その後、サークルメンバーとろう者による手話劇・歌は会場いっぱいに笑いを届けました。

そんな風に、感動や笑いを通し互いに助け合い優しい笑顔で生きていきたいな。と考えさせられ集いは終了し、次回開催の伊万里へバトンは渡されました。

(報告:佐賀市)



「講演中の善岡修氏」



「サークルメンバーとろう者による手話劇」

<長崎県>

第40回耳の日集会 in おおむら

2009.3.1(日)、大村市のろうあ福祉協会大村支部が主管となり、大村市民会館に於いて盛大に開催されました。参加者400名余。長崎県の場合ろう協支部が4つあり、毎年持ち回りで行われています。

記念講演に緒方れん氏を迎え、「性同一性障害～私～わたし」というテーマで話して頂きました。子供の頃から男性として生きることには違和感を持っていたことや性同一障害とは？戸籍の性別変更を認める条件など分かりやすく話されました。最後に一人芝居「3匹の子豚」のリアルな手話表現は、ユーモアたっぷり爆笑する場面もあり楽しく魅力的でした。

アトラクションは、大村支部と大村手話サークルの手話劇「先輩からの贈り物」。過去をスクリーンで映し、現在を舞台上で演じるという新しい手法でかなり好評でした。最後はろう協、サークルの有志でフラダンス、アンコールもあり楽しい一日になりました。



〈大分県〉

ろうあ者福祉大会が臼杵市で開催

3月1日(日)に第41回大分県ろうあ者福祉大会が臼杵市で県内各地から600人に及ぶ参加者が集まり大変盛大に行われました。会場に到着し、入口に向かうと何やら地響きのような大きな音がしており、何だろう？と歩を進めると会場入口では陣太鼓で御出迎え、とても威勢の良いテンポ、体中で感じることのできる太鼓の振動に元気をもらうことができました。午前の式典を終え、午後からのアトラクションは、地元の稲葉太鼓ジュニアの幼稚園児とは考えられない大変素晴らし演奏を披露してくれました。その後、パントマイムにジャグリングと会場を巻き込んでのアトラクションに参加者全員が大満足。そして、最後は、一

番！？のお楽しみの抽選会！賞品は地元臼杵の醤油や焼酎、サークル会員の方の作られた野菜など豪華賞品でした。残念ながら私は、当たらなかったですが……。大会終了後は、臼杵市の、いやいや大分県の観光名所である臼杵石仏を見学に行き、心身ともに癒され、臼杵の美味しいものを食べ充実した一日を過ごして家路につきました。昨年は、大分県で国体や全国障害者スポーツ大会があった関係で、今回の大会運営に携わった人達は本当に大変であったと思います。そして、とても温かく迎えて頂き感謝感謝！！



<熊本県>

※「平成 20 年度県わかぎ研修会」

平成21年2月1日(日)

場所:熊本大学 工学部223教室

内容:

10:00～12:00

講演「障害者自立支援法の現状と課題」

講師 全国聴覚障害者情報提供施設

副理事長 柴田 浩志 氏

13:00～13:30

野田尚子さんによる絵本の読み聞かせ

13:30～15:30

「地域の課題を理解し、これからのサークル活動の展望」

※各サークルからの発表

※熊本県「平成 20 年度地域共生くまもとづくり事業」助成事業

『めざせ、地域の人づくり～聴覚障がい者と共にあゆむ手話サークル』

県の助成事業に応募し、計 23 万円の人材育成助成金をいただき開催いたしました。

私たちの「手話サークルわかぎ」が今の活動以外にも何かできることがあるのではないだろうかと思い今回の研修会に参加させてもらいました。まず全国聴覚障害者情報提供施設協議会副理事長の柴田浩志さんの講演で感じたのは、障害者自立支援法が13年も前の橋本内閣が掲げた社会保障制度改革が発端であったこと。平成18年度からスタートした同法が応能負担から応益負担へと変わったこと。それにより社会全体で障害者を支え維持していたシステムを、規制緩和政策が悪循環へと転換させたことで、障害を持っている人の負担

が重くなり、障害がない人が知らぬふりをして問題にならない社会へと進んでいく悪いイメージが頭の中をよぎる内容でした。このような事実を踏まえ与えられた枠組みの中でより良い活動ができる事例の報告や現状を打開するための取り組みなどが紹介されました。

また、今回の研修会で各サークルの課題が取り上げられ、どこのサークルにも同じような悩みがあり各サークルで力を合わせて頑張るきっかけになったと思います。

私たちのサークルも年間を通して様々な行事が企画されていますが、活動の土台となっている会員一人一人がサークルに目を向け聴覚障害者に関心をもつことが大切であり、誰もが気軽に参加できる雰囲気を作り上げていく必要があります。ですが雰囲気づくりとは目に見えにくく、わかりづらい面があり試行錯誤するところですが、小さな希望を大切に持ち続ける会員が一人でも多くいてさえすれば、サークル活動の発展につながるのだと思いました。

(天草わかぎ)



<熊本県>

「耳の日ふれあい'09」

平成21年3月15日(日)

場所:熊本学園大学 高橋守雄記念ホール

内容:

13:15~15:10

講演「手話文化を語る」

講師 米内山明宏氏

15:25~16:30

米内山明宏氏を囲んでのトークショー

3月15日に開催された「耳の日ふれあい'09」は、米内山明宏さんの講演とあって楽しみに参加した。

ところが、米内山さんは怒っていた！テーマは「手話文化を語る」。手話文化とは、つまり、ろう文化、ろう者が今まで積み上げてきた歴史である。肩トントン、電気点滅、

手ヒラヒラ(拍手)…。そして、日本手話、大きく言えば、ろう者の生活そのものがろう文化だ！

それを今は、健聴者が知ったかぶりして、あたかも主導している！（怒）ろう学校は聴社会が主導しているし、通訳者は日本語対応手話で全然分からない…。ろう協も聴社会に引っ張られているし、サークルも然り…。手話を学ぶ人は、先ずろう者とろう文化を知る必要がある。そして、ろう者と健聴者はお互いに教えあって高め合う必要があると…という内容だった。

私達も知らず知らずのうちに、健聴者主導のサークル活動を行っていたのかもしれない。ろう者が怒っている事を頭に入れて、少しでもろう文化に近づくようにしたい。

（鹿本わかぎ）



<鹿児島県>

『裁判員制度』説明会

3月8日(日)午前10時から、ハートピアで『裁判員制度』に関する説明会がありました。

今回は鹿児島県聴覚障害者協会、全国手話通訳問題研究会鹿児島支部、鹿児島県手話サークル連絡協議会(三団体)初の合同研修会として実施しました。

午前はDVDの視聴と質疑応答、午後は資料を使った説明と質疑応答という形で進められました。

聴覚障害者のみなさんから、いくつか質問がなされました。

Q 聴覚障害者だからということで、裁判員に選ばれないということがあるのか？

A そのようなことはなく、聴覚障害者であっても選挙人名簿には名前が載っているわけだから、当然選ばれるので、聴覚障害者であるということを理由にして裁判員から外されるということはない。

Q 手話通訳は保障されるのか？ どの段階から保障される？

A 聴覚障害者の申し入れによって手話通訳を置く。「選任手続き」の段階からと考えている。

説明会終了後に裁判所側と三団体との話し合いがあり、裁判の際に手話通訳を置くということについては裁判所側も同じだったのですが、どのような人を通訳で置くかということについて意識されてないのではないかと思います。

「手話ができる(分かる)」と「手話通訳ができる」ということとは違うし、裁判において中途半端な手話通訳をしたのでは、たいへんな問題であると思いました。



<宮崎県>

第38回 宮崎県耳の日記念大会に参加して

機関紙部 黒木淳子

手話を学び始めて、今回二回目の参加であった。一昨年の都城・そして今回。手話を勉強中ということで、壇上の通訳者の手話表現を冊子に記載されている文章と照らし合わせて理解していく…ということを真面目にしていれば、私も少しは上達するだろうが、私の興味は会場中の人々に向いてしまう。

久々の再会であったろうろうあ者達のおしゃべりを見ていると、その嬉しそうな顔を見ているだけで、私もほんわかとした気持ちになってしまう。スタッフとして忙しそうにされている方々を見ていると、せめて広告協賛金だけでも協力すべきだったなと反省する。触手話をされている方々の手元を見ては、ただただ感心するばかり。

初めての耳の日大会に参加した時に、こういう会こそ健聴者である我が子を連れてくるべきだったなと思った。健聴者が知るべき会であったと思い都城を後にしたのを思い出す。こう思いながら座席を見渡すと、小学校入学前の年齢から中学生年齢までのボーイスカウトの子供達が引率者とともに参加していた。中学年齢の子供達は冊子にも目を通し、講師・塩野谷先生の講演にも聞き入っていた。私は集中していた子供達の様子を見て、嬉しかった。

「健聴者が知るべき大会である」と子供達に案内を出して下さった方がいることを

嬉しく思うと同時に、思うだけで行動しなかった自分を再び深く反省した。

第38回 宮崎県耳の日記念大会に参加して

機関紙部 友草千栄子

3月1日メディキット県民文化センターにて「耳の日記念大会」が開催されました。

第一部では祝辞挨拶、第二部ではアトラクション、第三部は記念講演でした。

アトラクションでは、都城さくら聴覚支援学校の「都ろう太鼓」と日章学園ヒップホップダンス部の「Hip Hop」でした。

太鼓では、小学生は先生の指導を見ながら一生懸命叩く姿が微笑ましく、中学、高校生となるにつれて力強さも加わり団結して叩く姿に大変感動しました。

日章学園の皆さんは全国大会で優勝されているだけあり、上手で生き生きと踊る姿が印象的でした。何事も一生懸命に取り組む姿は本当に気持ちの良いものですね。

記念講演会は、ろうあ者初南極点と北極点到達・塩野谷 富彦さんの旅行体験談でした。塩野谷さんは「アッシャーシンドローム」という障害を持たれているそうです。私はこの病名を初めて聞いたのですが、段差があるかないのかはつきり分からないとか、視界がぼやけて見える、等の症状だそうです。

しかし、このような障害を持ちながらも100回も海外旅行を経験されているのには驚きました。英語の筆談でコミュニケーション

を取りながら海外旅行をされる中で、体験された事や、感じた事、色々な失敗談等を楽しく話して下さいました。

障害を持つとはいえ様々な事に興味を持ち、実行する勇氣、行動力は素晴らしい事だなと思いました。無論、私には計りしれな

いご苦労など大変な事もあったのだと思いますが…。

参加された皆さんも挑戦する勇氣と元気をいただけたのではないのでしょうか。



平成21年3月1日(日)

第2部 記念講演会

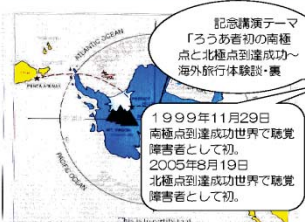
午後1時から午後2時50分

平成21年3月1日(日)

大会速報2号

発行日 平成21年1月22日

子ども保育について



塩野谷富彦さんにとって南極大陸は小さい頃からの夢でした。
100カ国踏破（2007年4月26日スーダン世界で聴覚障害者としては新記録）



会 場：メディキット県民文化センター（旧・宮崎県立芸術劇場・演劇ホール）
時 間：受付…午前9時30分 開会…午前10時30分
★ 入場整理券・500円（高校生以下無料） ★ お弁当・600円（お茶代別）

実行委員会事務局 宮崎市聴覚障害者協会
〒880-0024 宮崎市祇園1-50
電話・FAX番号 0985-22-3699

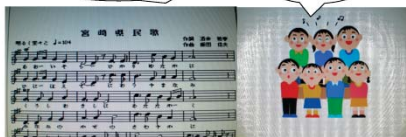
アトラクション

宮崎県耳の日記念大会
平成21年3月1日(日)会場



(1) 宮崎県民歌
午前10時25分から

手話で県民歌を
歌います。
あお～いそら～



(2) アトラクション
宮崎県立都城さくら聴覚支援学
校太鼓クラブ
午前11時30分から



(3) アトラクション
ヒップホップダンス
午前11時45分から

日章学園高校12年生7人で構成するダンスチーム「神風」。東京で行われた、全国エアロビクスコンテスト全国大会フィット



(4) フラダンス
午後3時00分から

(5) 抽選会
午後3時05分から
午後3時20分まで



※なお進行の都合上、多少の時間のずれはご了承下さい。

○ 九州3団体での行事です♪

1. 平成21年度九手連評議員総会

平成 21 年 6 月 27 日(土) 18:00～20:00

佐賀県佐賀市(メートプラザ佐賀)

※ 評議員総会に先立ち、幹部会議(14:00～16:30)及び通信員会議(17:00～17:30)を行います

「メートプラザ佐賀」の正式名称は、「佐賀勤労者総合福祉センター」です

佐賀市兵庫町大字藤木 1006 番地1

TEL (0952) 33-0003

2. 平成21年度九手連研修会

※従前の九手連リーダー研修会です

平成 21 年 6 月 28 日(日) 10:00～15:00

佐賀県佐賀市(メートプラザ佐賀)

午前の部 講演「ろう者と労働(仮題)」

講師:山本 浩之氏(前全日本ろうあ連盟 青年部事務局長)

午後の部 講演「聴導犬について(仮題)」

実地を含む

講師:聴導犬育成協会

3. 第37回全九州手話通訳者研修会

※第58回九州ろうあ者大会(平成 21 年 9 月 5 日～6 日)との併催です

平成 21 年 9 月 5 日(土) 9:30～17:00

大分県別府市(別府ビーコンプラザ・大分県立社会教育総合センター)

共通研修 9:30～12:00 別府ビーコンプラザ

「障害者自立支援法の今後の取り組み」

講師:安藤 豊喜氏(九州聴覚障害者団体連合会 名誉理事長)

「聴覚障害者問題に関わる研修会」、「手話通訳者研修会」合同の共通研修です

午後の部① 13:00～14:50

大分県立社会教育総合センター(別府ビーコンプラザ前)

「リーダーシップとは！！」

講師:ハツ塚 一郎氏(熊本大学教育学部 准教授)

午後の部② 15:10～17:00

大分県立社会教育総合センター(別府ビーコンプラザ前)

「防災減災ー今の私たちにできること」

講師:鶴川 恵氏(長崎県諫早手話サークル会長)

宮崎県障がい者スポーツ大会（21年5月10日）のひとこま



編集後記

各県毎年、耳の日の事業は盛大に行なわれるみたいですね。

今年も又、楽しそうな素晴らしい記事が寄せられました。原稿、有難うございました。

暖かくて風も爽やか、5月は気持ちのいい季節ですね。端午の節句もあり、鯉のほりも空をおよいでいます。私の住む町、佐土原町では「くじらのほり」が有名です。赤や青の太った「くじら」が青空をおよぐのです。見上げると、思わず笑顔になりますよ。

皆さまも5月病などにかからない様に、自分に合ったストレス解消法を見つけて、健やかにお過ごし下さいませ。

九手連手話サークル連絡協議会

〈事務局〉 〒866-0892 熊本県八代市古閑下町 1717-43 前淵 洋一
TEL 0956-35-2653

〈発行責任者〉 中元 教博

〈広報担当〉 宮崎理事：齊藤 勝子

〈発行年月日〉 平成21年5月12日